

# 平成29年におけるSNS等に起因する被害児童の現状と対策について

## 1 全体の傾向

- (1) SNS等に起因する事犯の被害児童数の推移
- (2) 罪種別の被害児童数の推移(SNS)
- (3) 年齢別の被害児童数の推移(SNS)
- (4) 学職別の被害児童数の推移(SNS)
- (5) 罪種別の被害児童数の推移(出会い系サイト)
- (6) 年齢別の被害児童数の推移(出会い系サイト)

資料1

資料2

資料3

資料4

資料5

資料6

## 2 被害の現状

- (1) SNSのサイト種別の被害児童数の推移
- (2) 被害児童のSNSへのアクセス手段(割合)の推移
- (3) SNSにおける被害児童の現状
- (4) フィルタリングの利用状況
- (5) 被害児童数が多いサイト

資料7

資料8

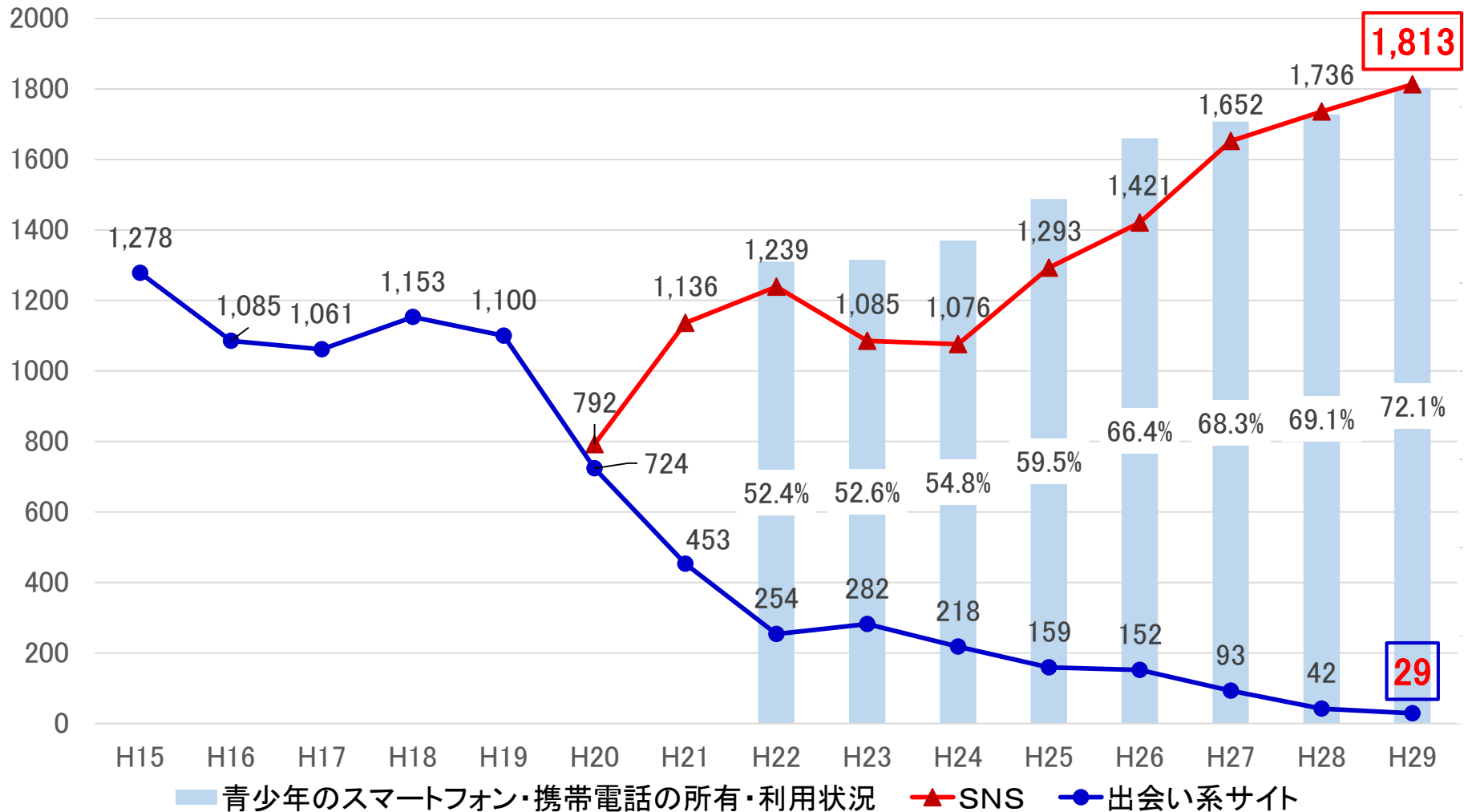
資料9

資料10

資料11

## SNS等に起因する事犯の被害児童数の推移

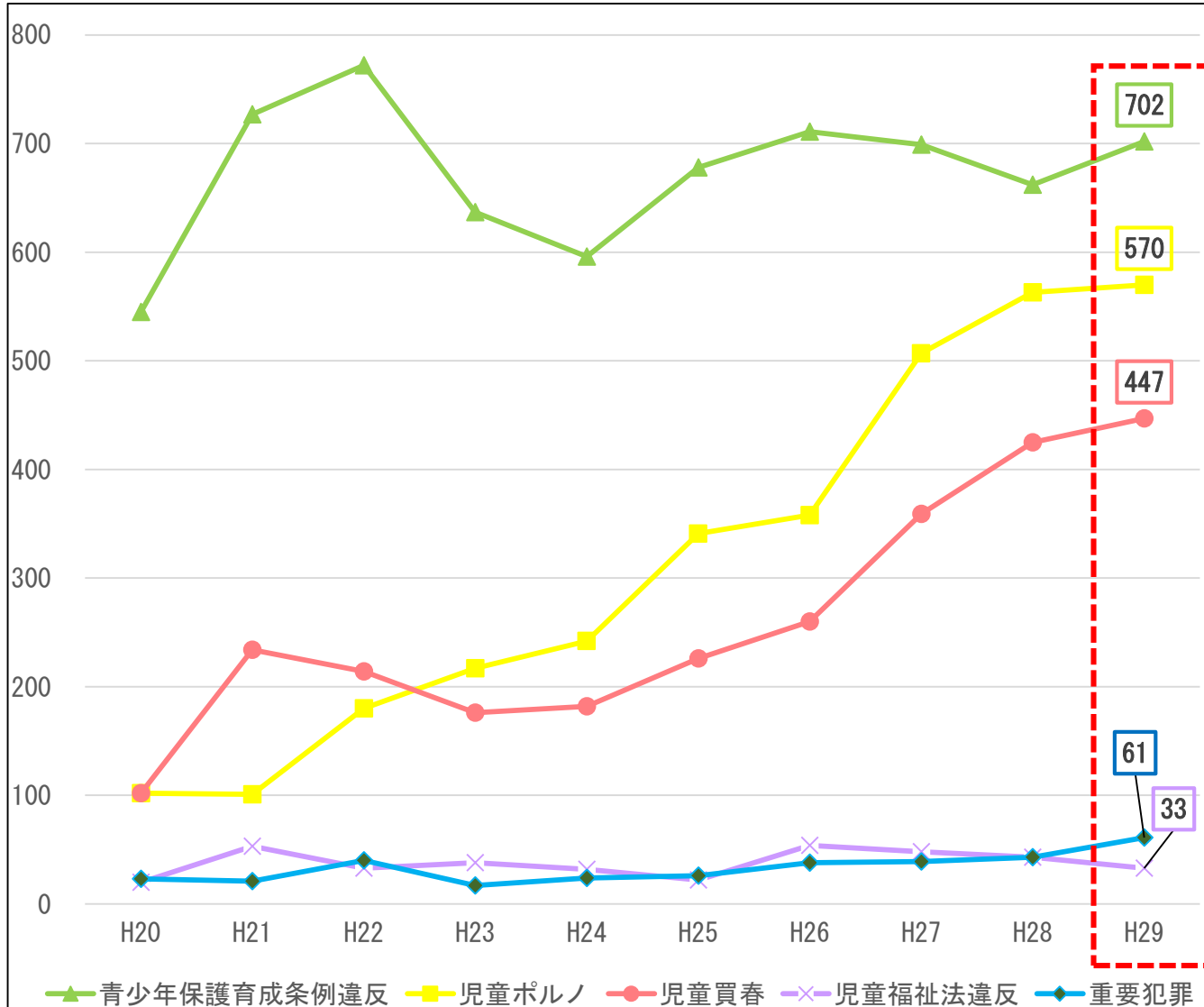
- ・ SNSに起因する事犯の被害児童数は、青少年のスマートフォン等の所有・利用状況の増加に伴い増加傾向
- ・ 一方、出会い系サイトに起因する事犯の被害児童数は、平成20年の法改正以降減少傾向



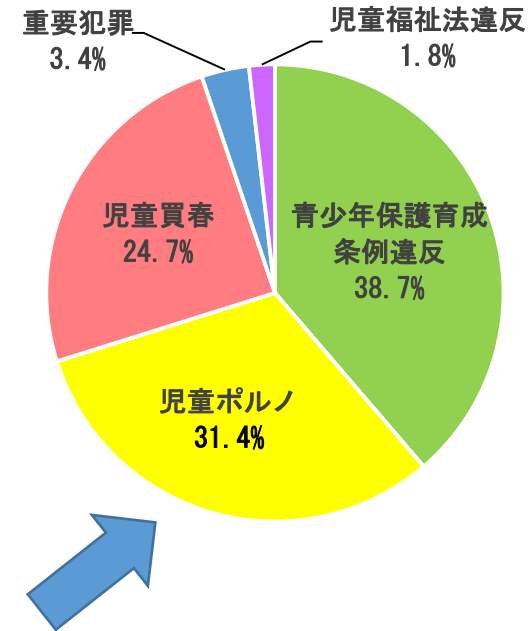
※ 青少年のスマートフォン・携帯電話の所有・利用状況(統計数値)については、内閣府ホームページから引用

## 罪種別の被害児童数の推移(SNS)

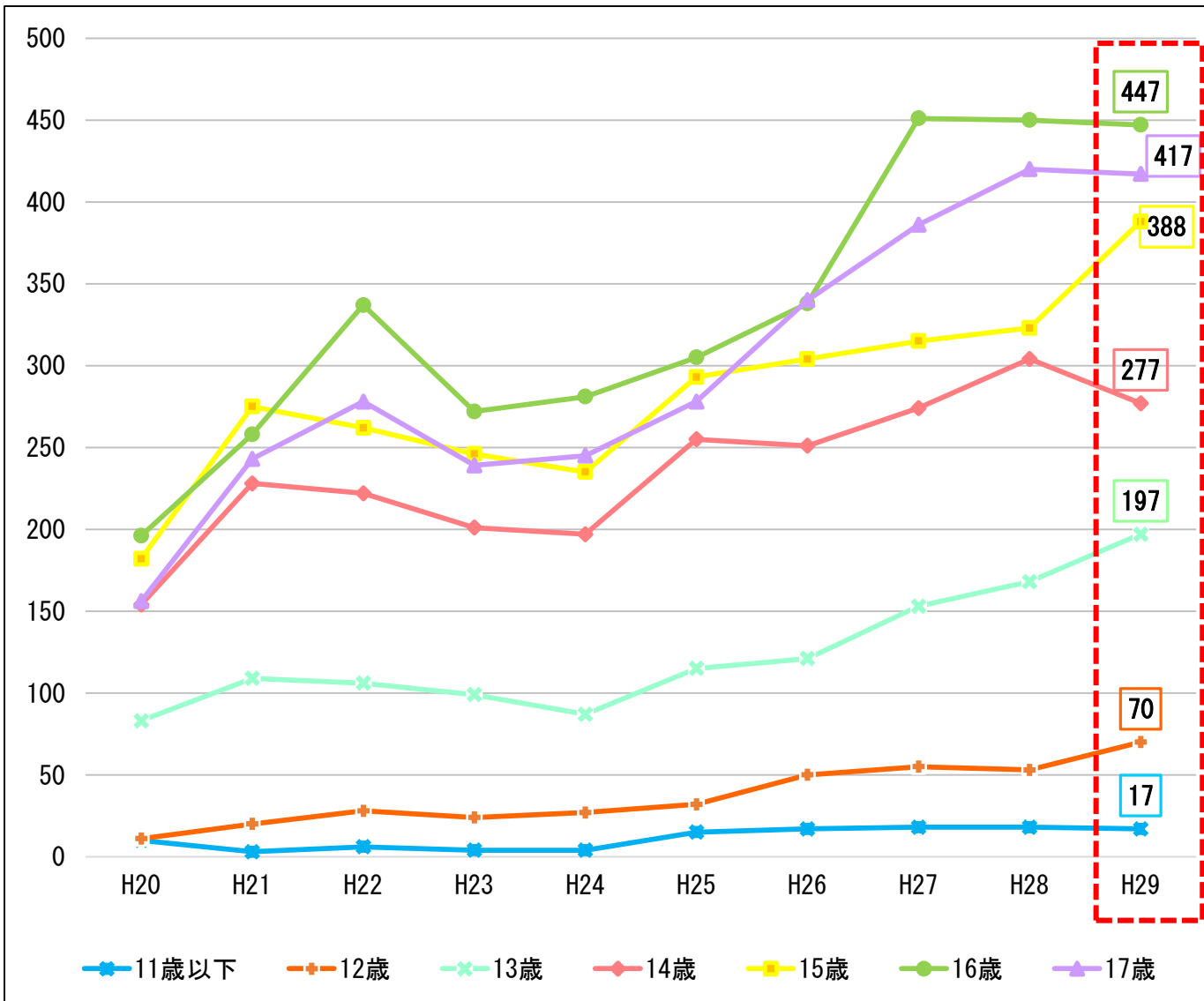
罪種別では、児童ポルノ及び児童買春事犯が増加傾向にあり、他罪種は横ばい。



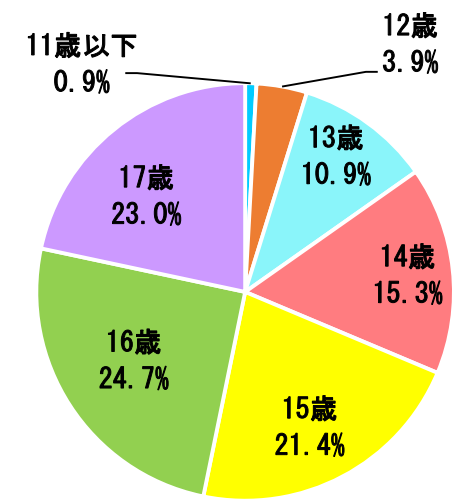
罪種別の被害児童数の割合 (H29)



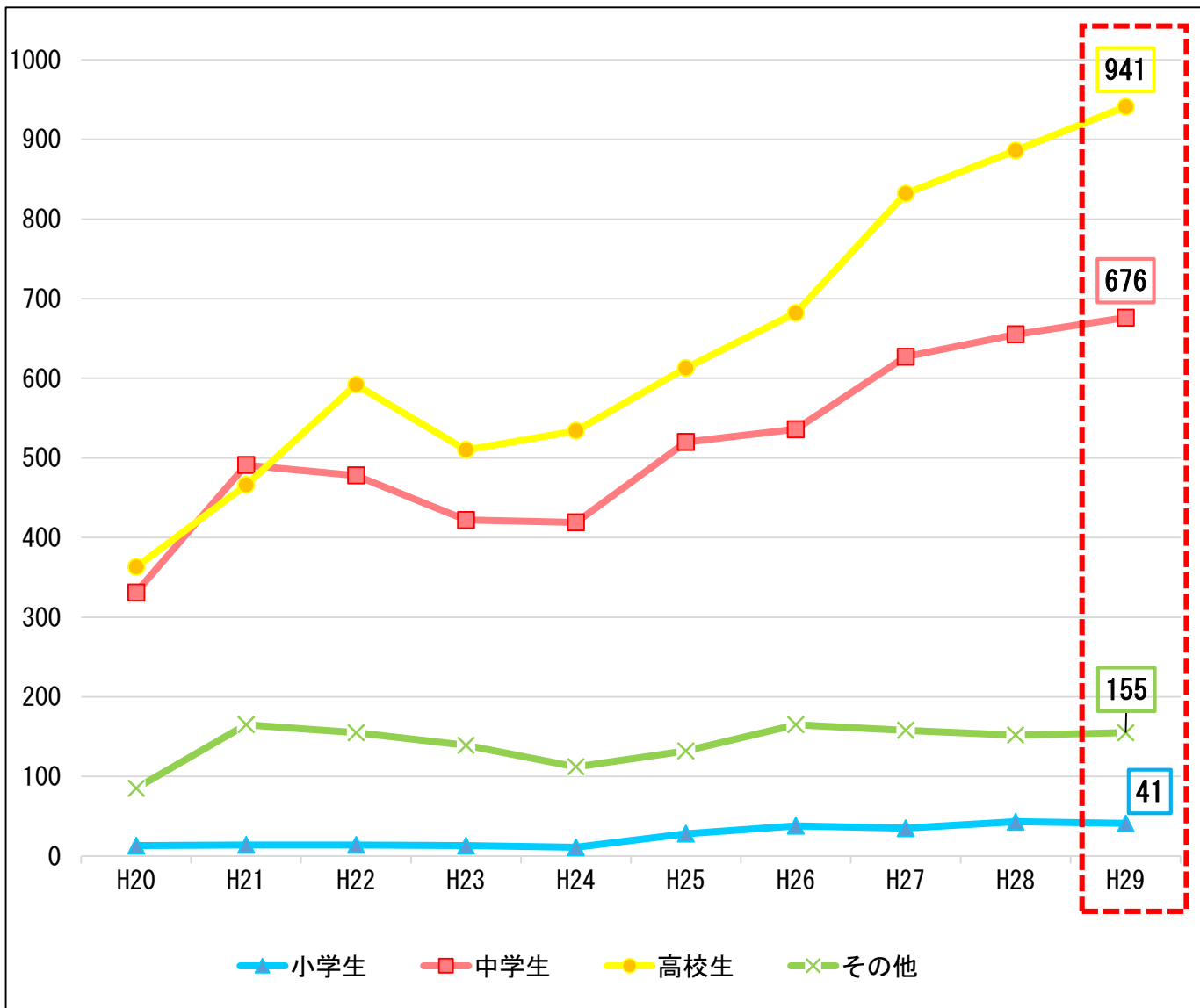
年齢別では、13歳と15歳が増加傾向にあり、16歳及び17歳は横ばい。



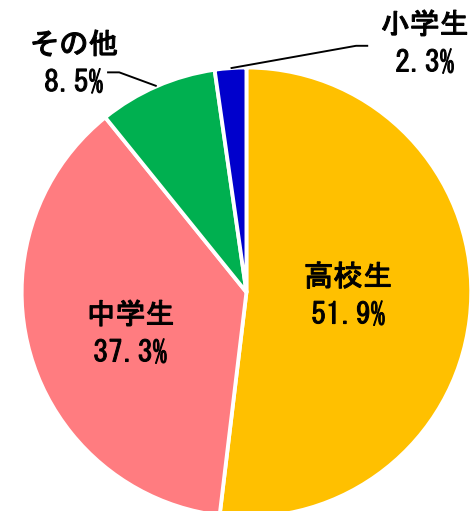
年齢別の被害児童数の割合 (H29)



学職別では、高校生及び中学生が9割弱を占める。

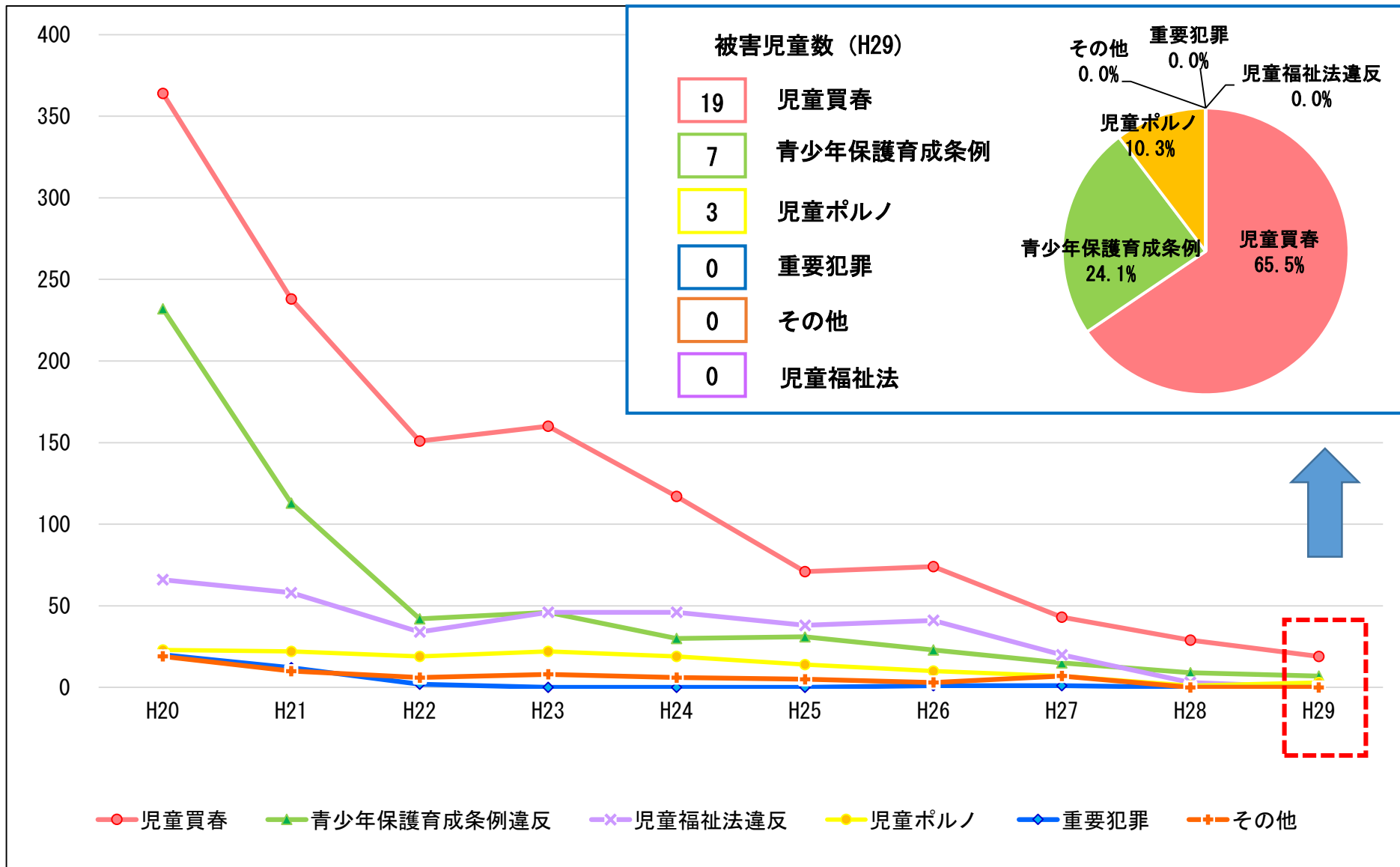


学職別の被害児童数の割合 (H29)



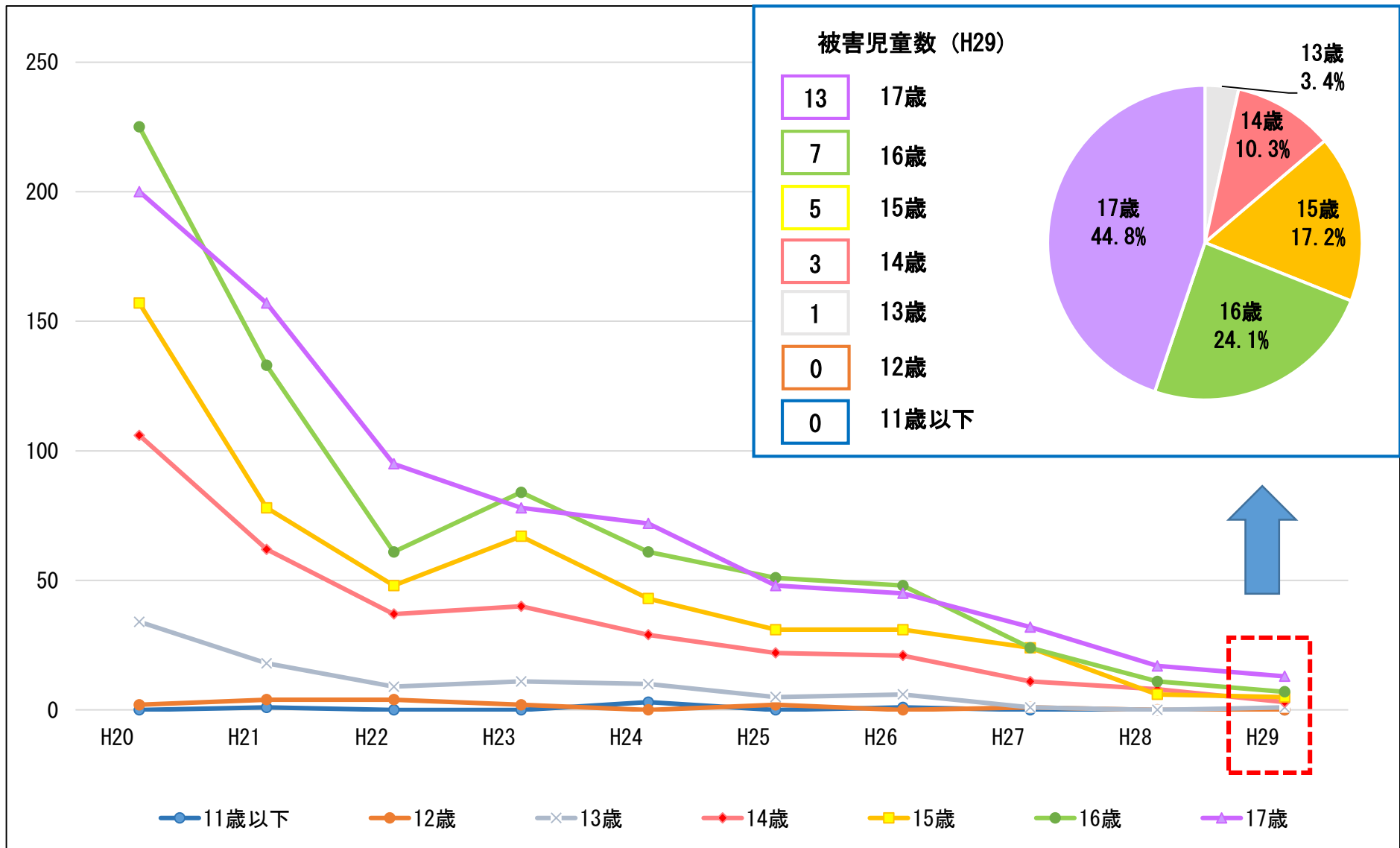
# 罪種別の被害児童数の推移(出会い系サイト)

罪種別では、児童買春及び児童ポルノ事犯が全体の8割弱を占める。

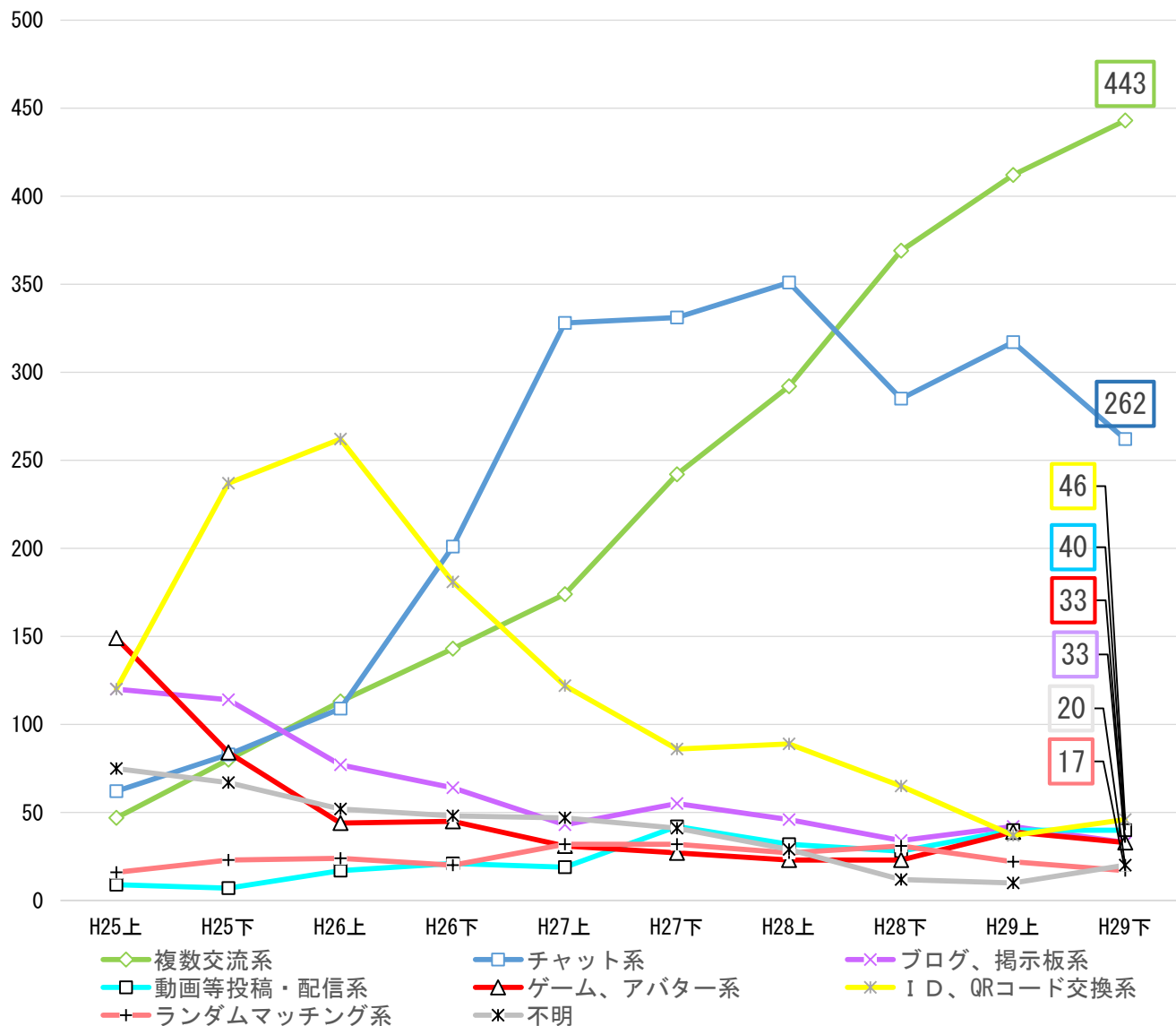


# 年齢別の被害児童数の推移(出会い系サイト)

年齢別では、16歳及び17歳が全体の約7割を占める。



サイト別では、「複数交流系」が増加傾向にあり、他種別は、横ばい又は減少傾向。



**複数交流系**：広く情報発信や同時に複数の友人等と交流する際に利用されるサイト

**チャット系**：面識のない利用者同士チャットにより交流するサイト

**ブログ、掲示板系**：趣味やカテゴリ別のコメント、日記等を掲載し、それを閲覧した利用者で交流するサイト

**動画等投稿・配信系**：動画や画像、音声等を投稿、配信し、それを閲覧した利用者で交流するサイト

**ゲーム、アバター系**：主にゲーム等のキャラクターやアバターとして他の利用者で交流するサイト

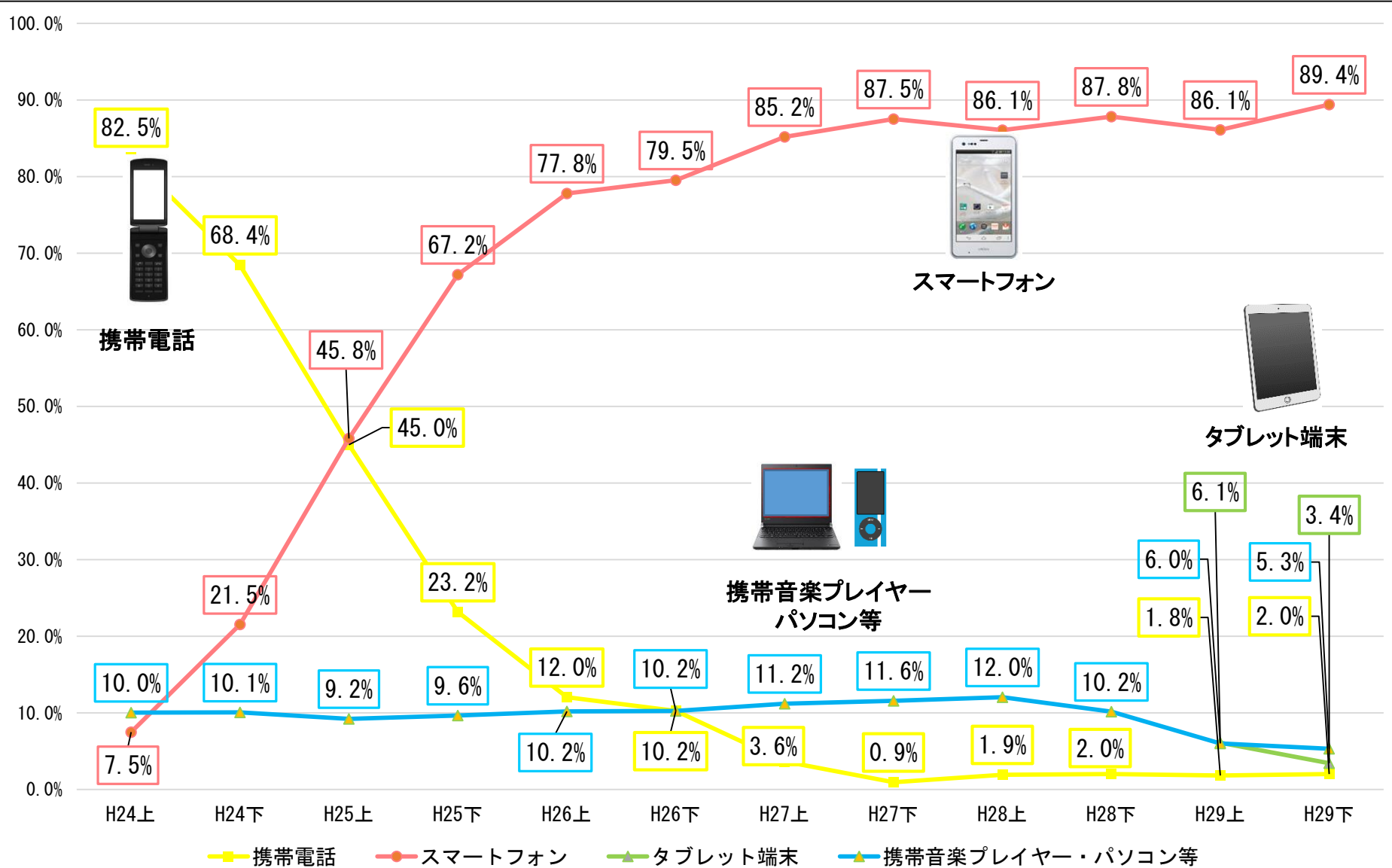
**ID、QRコード交換系**：IDやQRコードを交換し見知らぬ相手と交流することを目的としたサイト

**ランダムマッチング系**：ランダムに他の利用者で結びつき、その利用者で交流するサイト

**不明**：サイトやアプリを特定するに至らなかったもの

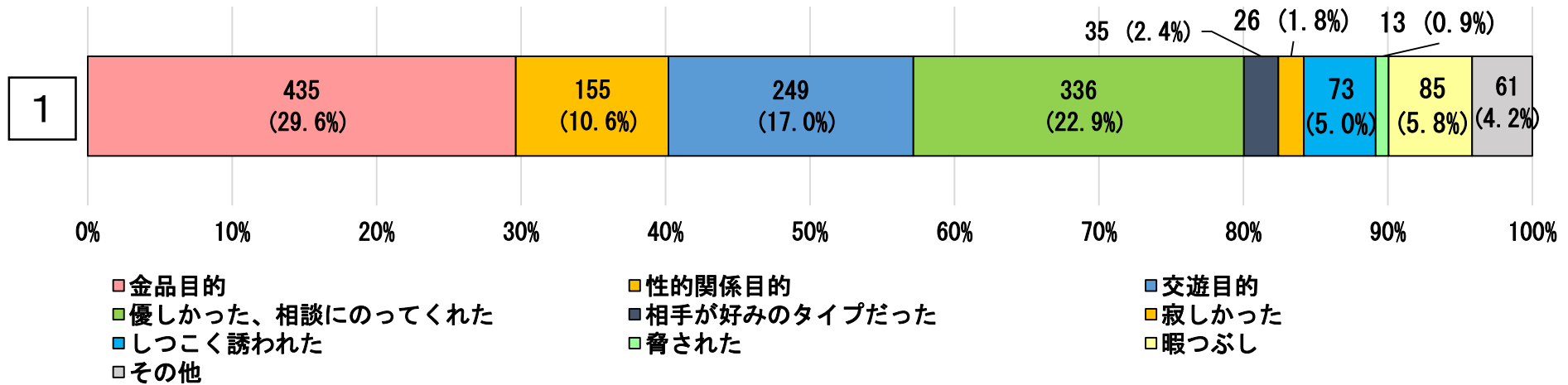


被害児童のSNSへのアクセス手段では、9割弱がスマートフォンを利用。

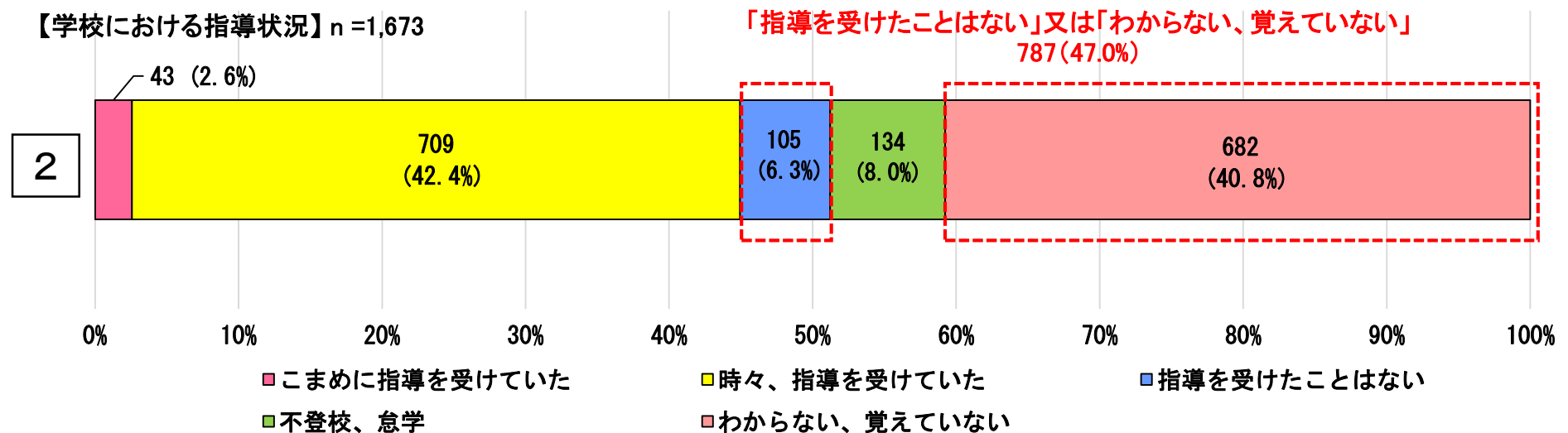


- ・ 被疑者と会った理由では、「金品目的」及び「性的関係目的」に関連する理由が4割強を占める。
- ・ 学校における指導状況では、「指導を受けたことはない」又は「わからない、覚えていない」と回答した児童が5割弱を占める。

【被疑者と会った理由】 n = 1,468

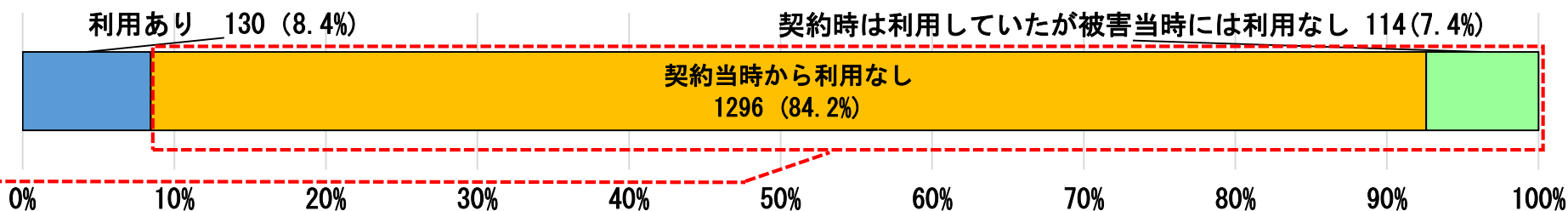


【学校における指導状況】 n = 1,673



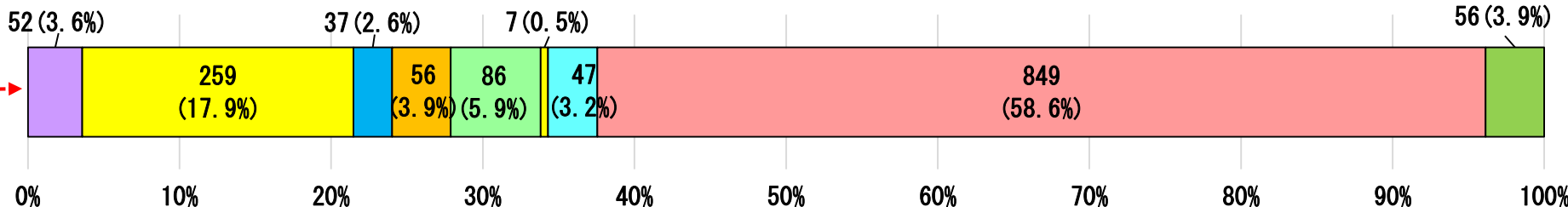
- ・ フィルタリングの利用の有無が判明した被害児童のうち、8割強が契約当時から利用していない。
- ・ 契約当時からフィルタリングを利用していない被害児童において、保護者の多くがその理由を「特に理由はない」と回答しており、関心の低さが見られた。

【フィルタリングの利用状況】 n=1,540

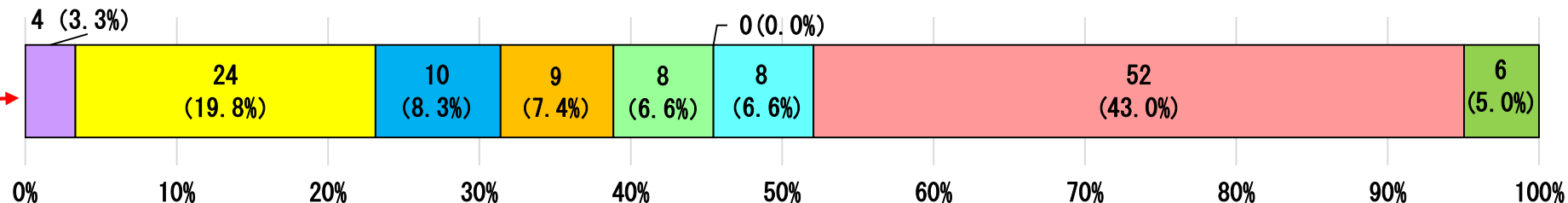


【保護者がフィルタリングを利用しなかった理由】 ※複数回答あり

① 契約当時から利用なし n=1,449



② 契約時とは利用していたが被害時には利用なし n=121



- 子供が不適切な利用をしないように管理できるため
- 制限されるサービスを使わせるため
- 効果がわからない
- 子供に反対された
- その他

- 子供を信用している
- 設定や内容変更が難しいため
- お金がかかるため
- 特に理由はない

「Twitter」と「ひま部」に起因する被害児童数が増加。

